

『大阿弥陀経』における「齋戒清浄」

肖 越

問題の所在

本稿では『大阿弥陀経』(以下『大阿』)における代表的な用語の一つ「齋戒清浄」⁽¹⁾をとりあげ、文献学的にみて〈無量寿経〉諸本の最古訳としての『大阿』の前半にも付加・修訂された可能性が高いことについて論じ、「初期無量寿経」の成立の解明に一石を投じたい。

一 『大阿』の願文における「齋戒清浄」

願文の部分を除いて、『大阿』の「齋戒清浄」の用語の一連の文は、すべて『平等覚経』(以下『平等』)にも踏襲されている。『大阿』の願文に往生の条件として独特に使用されている「齋戒清浄」の用語は、『大阿』の願文の成立と緊密に関わる可能性が高く、十分に注意すべきである。

①現存の『大正蔵』の『大阿』(以下「大正蔵本」)には、「齋戒清浄」は第七願にしか見られない。しかし、宋・元・明三

本では第六願の「断愛欲」の後ろに「齋戒清浄一心念我昼夜一日不断絶皆令」という十七文字が見られる。宋・元・明三本の第六願は「断愛欲、齋戒清浄、一心念我昼夜一日不断絶、皆令來生我国作菩薩」(『大正蔵』、三〇一頁の注一〇)とある。注意すべきは、まず、『中華大蔵経』と、高田専修寺蔵本の『大阿』写本には、宋・元・明三本と同じく十七文字があったことである。⁽²⁾しかも、高田写本に示されているように、この十七文字はちょうど一行分で、その一番上の文字が「齋」、一番下の文字が「令」となっている。写本の各願文部分は、改行して書写されたので、違う写本にも高田写本と同じような状況であると考えられる。更に、第六願の十七文字とまったく同じような内容のものは、第七願にも見られる。したがって、書写された時に、誤写或いは、削訂された可能性が十分に考えられる。また、内容においても、この十七文字がなければ、意味において「断愛欲」と第六願の前半の仏塔信仰に関する記述と一致していないと思われる。したがって、十七

文字は、漢訳された際にあつたものに違いない。しかし、第六願の十七文字は、梵本のみならず、他の漢訳にも対応する願文はない。⁽³⁾その成立について考えなければいけない。

②『大阿』の第七願は、他の漢訳諸本に対応する願文の内容と違い、内容に基づき三つの部分に分けて考えたい。「第七願。①使某作仏時令八方上下無央数仏国、諸天人民若有善男子善女人有作菩薩道、②奉行六波羅蜜經、若作沙門不毀經戒、斷愛欲齋戒清淨、③一心念欲生我國、昼夜不斷絶……」(『大正藏』第十二卷、三〇一頁中)。それに対応する『平等』の第十八願(注3の書、五四頁)は次のように二つに分けて考えてみたい。「①十八我作仏時。諸仏国人民有作菩薩道者。②常念我淨潔心。壽終時……」(『大正藏』第十二卷、二八一頁下)。梵本の対応する第十八願と、伝魏訳『無量壽經』の対応する第十九願は、ほぼ『平等』と同じ内容である。

以上の比較によると、『大阿』の往生に直接にかかわっている第七願は、字数においては、他の漢訳とかなり違いが、よく分析してみると、その違いは②の部分だけで、残りの①と③の部分は、基本的に『平等』の第十八願と同じである。更に、②の部分は、意味においても、矛盾しているように思われる。なぜなら、戒を守っている沙門は、愛欲を断じるのが当然だからである。更に、この部分の「斷愛欲、齋戒清淨」と③の前半とあわせて、すでに論じた第六願の十七文字とは

ほぼ同じもので、重複している。では、『大阿』の第六願と第七願の②は、最古の底本にあつたものか、あるいは翻訳者に修訂・付加されたか、という問題はよく考えなければいけない。

二 三輩と五惡段における「齋戒清淨」

注意すべきは、第六願と第七願には「齋戒清淨」に関連する願文の成就文が、頻繁に見られる点である。それらの表現も軌を一にする。しかし、梵本には、それらに対応する文は見られない。『大阿』の成立について研究する際に、看過することができない。まず、第一輩往生段は、次のような文がある。「最上第一輩者当去家捨妻子斷愛欲、行作沙門、就無為之道……当作菩薩道不当与女人交通、齋戒清淨、心無所貪慕……諸欲往生阿弥陀仏国者、当精進持經戒、奉行如是上法者、則得往生阿弥陀仏国……」(『大正藏』、三二〇頁上)。上文では、まず家を出て妻子を捨て、愛欲を断つて、沙門になることを述べられたが、後に繰り返し「女性と交わってはいけない、清淨にして齋戒すること」が説かれる。最後に、また戒を守ることが強調されている。繰り返し戒を守ることが説明するのは、翻訳者が特に「愛欲を断じるといふ齋戒清淨」の行を強調したかったに違いない。

次に第二輩段には「齋戒」の用語が三回見られる。「①雖

不能去家捨妻子斷愛欲行作沙門者、当持經戒無得虧失：如是法者、無所適莫、不当瞋怒、齋戒清淨、慈心精進、斷愛欲、欲往生阿彌陀仏国、②我悔不知益齋戒作善…③次当復如上第一輩、其人但坐前世宿命求道時、不大持齋戒、毀失經法。意志孤疑。不信仏語。注意すべきは、上例の②と③の文が、『大阿』と『平等』のみの内容である。「齋戒」の用語は、極樂への往生に直接に関わりがある。『大阿』の翻訳者は、繰り返し「齋戒」を強調することによって、「齋戒」の行は、極樂に往生する重要な条件であることを主張していたのは明白である。

次に、『大阿』の第三輩往生の段落には、上記の用例と軌を一にする表現もみられる。「当斷愛欲無所貪慕…齋戒清淨、如是法者、当一心念欲往生阿彌陀仏国…」。

最後に、三輩段の次の部分は、いわゆる有名な「五悪段」である。⁽⁴⁾往生条件としての「齋戒清淨」の表現は、三回使用されている。「至要当齋戒一心清淨、昼夜常念、欲往生阿彌陀仏国。十日十夜不断絶。…不暇大齋一心清淨、雖不能得去家棄欲：莫与婦人同床、自端正身心断於愛欲、一心齋戒清淨。至意念生阿彌陀仏国。一日一夜不断絶者」。以上『大阿』の三輩と五悪段の部における「齋戒清淨」の用例を中心に考察した結果、「齋戒清淨」の一連の文は、それぞれほぼ軌を一にすることが分かる。しかも、それらの用例には、すべて梵

『大阿彌陀経』における「齋戒清淨」(肖)

本に対応する原語が見つからない。「齋戒清淨」の用語は、『大阿』翻訳者の意志に基づいて付加されたとしか判断できない。したがって、昨年度筆者が指摘したように、「五悪段」を考へなくても、『大阿』の願文と三輩段は、修訂されたものだと証明できる(本論注1の拙稿六二頁)。

三 「齋戒清淨」の意味とその役割

① 仏教の「齋戒」は、「八齋戒」の意味である。しかし、『大阿』における「齋戒」は、「八齋戒」の意味ではないことは、明らかである。

② 中国文化における「齋戒」について検討する理由は、「五悪段」に当たる文に「齋戒」の三つの用例があるからである。まず、中国の儒教においては、『孟子』に「雖有悪人、齋戒沐浴、即可以祀上帝」の用例がある(『漢語大詞典』第十二巻、一四三七頁)。そして、中国の道教の『淮南子』には、「日長至、陰陽争、死生分、君子齋戒、慎身無躁…」とある。また、やや後世に成立した『抱朴子』に、「必入名山中齋戒百日、不食五辛生魚、不与俗人相見、爾可作大薬」の用例も見られる。更に、中国医学の『黄帝内经』にも、「齋戒清淨」によって病を治す役割を果たすことを記述している。

③ 『大阿』における「齋戒清淨」は「齋戒」と「清淨」の二つの用語から作られた複合語で、独特な意味を持つ。まず、『大

『大阿』における「齋戒」は、沙門の食事をする意味だけではなく、主に往生条件としての「愛欲を断じる」意味を強調することが、翻訳者の趣旨だとみて間違いない。したがって、『大阿』の前半部分でも、付加・修訂されたものだと証明できる。「清淨」についてはすでに、昨年度の発表で指摘したように、『大阿』には「清淨」という用語が十一回(『大正藏本』には十回)も見られる。それらはすべて「齋戒」と一緒に使われている。また、願文以外のすべての「齋戒清淨」は、『平等』にすべて踏襲されている。したがって『大阿』の「清淨」が、『平等』の「無量清淨仏」の仏名の成立に影響を与えたのは否定できない。しかも、「無量清淨仏」は初期中国浄土教の成立に重要な役割を果たした。したがって、『大阿』の「清淨」は『平等』を通して中国初期浄土教に重要な意義があるともみて間違いない(本論注1の拙稿六十一―六二頁)。

結論

①『大阿』における「齋戒清淨」の一連の文は、翻訳者の意志で付加されたのである。第六願の後半と第七願の②に「齋戒」に関する記述は、漢訳される際に翻訳者が特に付加したものである。⁽⁵⁾したがって、『大阿』の願文を始め、前半にもかなり修訂・付加があったことを証明できる。この結論は、今後『大阿』の原始形態や翻訳者などについて再検討する際

に、非常に参考になる。翻訳者が、極楽往生のための修行である「齋戒清淨」の重要性を強調したかったことは、間違いない。②『大阿』の「清淨」は後の『平等』の「無量清淨仏」の成立、及び中国初期浄土教にも影響を与えたことは否定できない。

1 『大阿』における国土観は「無量光明」・「智慧勇猛」・「齋戒清淨」の三つの用語に纏めることができる(拙稿(二〇一〇)、「初期無量寿経」成立史における「無量清淨平等覚経」、『佛教学総合研究所紀要』、第十七号、五六頁)。

2 『影印高田古典「第四卷」顕智上人集 下』、二八頁、また五五―五頁。角野玄樹氏のご教示に深く感謝する。

3 大田利生編(二〇〇五)、「漢訳五本梵本藏訳対照無量寿経」、永田文昌堂、五四頁。

4 香川孝雄(一九八四)、「無量寿経の諸本対照研究」、永田文昌堂、三〇―一頁参照。異説がある。

5 第六願全体の成立に関しては、拙稿(二〇一一)「『大阿弥陀経』の成立の問題をめぐって」(『佛教学総合研究所紀要』第十八号)参照。

〈キーワード〉 齋戒清淨、無量清淨、『大阿弥陀経』、『平等覚経』

(佛教学総合研究所嘱託研究員)